

「共創と協業」をさらに進化

業界初の商材で成長シナリオつくるTBグループ

村田 三郎会長に聞く

デジタルサイネージ（電子看板）をはじめとするLED照明機器、SA機器などの開発、販売を行うTBグループ。昨年10月1日に現社名に変更して以来、1年余りが経過した。この間を「共創と協業にチャレンジ」をスローガンに、普及率ゼロ市場

の創造に挑戦してきた」と振り返る同社の村田三郎会長から、その具体的成果や、券売機型レジスターサイネージ、LEDと導光板の組み合わせによるハイブリッド型サイネージなど、新たな業界初の商材開発への取り組み状況を聞いた。（小林茂）

社名変更1周年 着々と成果

——TBグループとして1年余りが過ぎた

「共創の具体的成果は、第1弾はビッグサンズグループで病院プリカシステムのNO.1企業であるホスピタルネット（2012年3月期実績、売上高約26億円、営業利益約1.9億円）を持分法適用会社に入れ、TBグループ内企業間の「共創、体制を強化した」

「第2弾は、今年1月の住友化学との「共創」で業界初の新世代薄型LED面光源『イルミフェイス』の開発が挙げられる。LEDパネルのサイズを規格化してパズルのように組み合わせることで、発光面を幅広いサイズに設計でき、目に優しい新しいスタイルのLED面光源を開発し、5月に発売した」

——住友化学との「共創、第2弾も発売される

「屋外対応型デジタルサイネージ『BRID』筐体内に、LEDと、住友化学との共同開発による新世代対応型LED面光源を使ったLED導光板を組み合わせ『イルミプラス』の商品名

で新春に発売を予定している。既存のスタンドにも取り付けが可能で、視認性に優れ、音楽も流れることから集客性に富むディスプレイだ。主な販売対象業種としてはお洒落な飲食店、美容室、歯科医院などを狙っている」

「また6月には外食チェーンへのASP情報サービスの優良企業、アルファクス・フード・システム（JASDAQ上場）との協業を発表し、双方の顧客へ両社で共同企画したLED照明、POSレジなどの販売を始める。さらに10月にはNDS（東証1部）の子会社で、ホテルビデオ・オン・デマンドの有力メーカー）であるBMTとホスピタルネットの株式相互持合いを実施し、病院・ホテルにおける情報サービス事業に取り組み始めた」

スマートフォン連携型 好調に推移

——LED表示機市場では、業界初のスマートフォン連携型

LEDディスプレイの発売も話題を呼びヒットしている

「グループ企業のトータルテクノが開発した『エコリアプラス』がそれ。スマートフォンなどのタブレット端末を利用してメッセージを簡単に表示できる新機能「スグスマ」を搭載した、業界初の入力革命ともなるLEDディスプレイだ。『タイムサービス』などの即時性の高いメッセージの表示が可能で好評だ」

広く提供できる多機能型 情報サービス事業も展開

——今後の新商品ニュースとしては

「電子マネー決済ができる券売機『レジサイケッター』を新春より発売する。店舗における券売機は、レジ会計処理業務の軽減、従業員の不正防止、現金を扱わないことによる衛生面の確保、防犯効果などからさまざまな業界でその導入が進んでいる。操作用タッチパネルとセールスプロモーション用ディス



むらた・さぶろう 福岡工業大工卒。1969年4月船井電機入社。78年ビッグサンズを設立し、社長就任。電子ディスプレイ事業、病院向けプリペイドカード事業などを行い、2006年6月東和メックス（現TBグループ）取締役を経て07年6月から現職。長崎県出身。65歳。

プレーのダブル液晶を搭載、屋外向けLED表示機で培ったパッケージ技術で制作した同装置は、屋外電子公告と券売機を組み合わせた業界初の屋外型商品だ」

「さら到来春2月に向けて、地域の安心安全のために緊急情報などを提供する『EN（エマ

ージェンシーニュース）情報システム』を企画開発中だ。

観光情報、地域情報、防災情報まで幅広く提供できる多機能型情報サービス事業の展開を予定し、実証テストを始めており、社会貢献できるとともに事業領域の拡大にもつながるものと考えている」